

# あいのわ

- 発行者 社会福祉法人あいのわ福祉会  
理事長 鈴島 妙子
- 連絡先  
〒121-0012 東京都足立区青井4丁目30番5号  
TEL:03-3849-1188 FAX:03-3849-7001  
URL <http://www.ainowa.or.jp/>
- 印刷・作成  
足立区大谷田就労支援センター

足立あかしあ園 綾瀬あかしあ園 舎人あかしあ園 神明障がい福祉施設 足立区大谷田障がい福祉施設 竹の塚あかしあの杜 あいのわ支援センター あいのわ相談センター



神明障がい福祉施設 成人式



足立あかしあ園 成人を祝う会



竹の塚あかしあの杜 成人の祝い

## 年頭のご挨拶



理事長 鈴島妙子



新年明けましておめでとうございませう。  
西年の三が日は、ほぼ全国的に穏やかな日和に恵まれました。皆様におかれましては、希望に満ちた新年を迎えられた事とお慶び申し上げます。  
旧年中は当法人の事業活動に対しまして、格別なご理解とご支援を賜りまして心から感謝申し上げます。  
さて、本年4月は社会福祉法改正の施行年度にあたりませう。改正の主旨は「経営規律の強化」「地域における公益的な取り組みの実施」「福祉人材の確保の促進」が挙げられています。  
あいのわ福祉会におきましても昨年度から政省令に従い、定款の作成や新たな設置になります評議員選任・解任委員会、評議員会や理事会の準備を進めていますのでございませう。  
又、新年のうれしいニュースとして「平成二十八年度東京都女性活躍推進大賞」の優秀賞に選出されました。特に女性職員のワークライフ・バランスに配慮した取組みが評価されました。これを励みに今後も男女共に継続して働きやすい職場の環境を整えてまいります。  
そして、昨年4月障害者差別解消法が施行され一年が経ちました。その間、胸が締め付けられるような事件が起きたり、広く世界も一内向き不寛容の流れが広がりつつあるようございませう。重い障害のある人の生きる姿それ自体の価値を含めて認める事など、多様性社会を構成する私たち一人ひとりが、改めて自分の心の在り方を問われている気が致します。  
大寒も終わりに近づいた時期の季節に「春隣」があります。寒い時期の春の予感には物事ははじまりが凝集されています。気持ちも自然と一掃にあたらしく、  
今年も役員・職員一同、共に生きる地域社会をめざして努めてまいりますのでどうぞよろしくお願ひ致します。  
皆様のおますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。年頭のご挨拶と致します。

新年のご挨拶



後援会会長 秋山啓司  
明けましておめでとうござい  
ます。

皆様におかれましては、希望  
に満ちた一年になりますよう、心  
よりお祈り申し上げます。

「人間の力は心に宿る」そんな  
メッセージが込められた開会式  
で、昨年9月リオ・パラリンピッ  
クが開催された。

白い上衣を着た旗手、上地結衣（かみじゆい）  
（22）の車いすに立てられた日の丸が風にはためいて  
いたのが印象的だった。

「誰れにも心がありその心から人間の力が生れる。そ  
こに障がいの有無は関係ない」、心に残る言葉であった。

21歳の片足ハイジャンパーのマリヤ・パン・タンガベ  
ルはインド南部の寒村で育った、家は驚くほど狭く貧  
しかった。母サロジャさんは果物や花の行商で一日僅  
か2ドル前後の稼ぎで生計を立てていた。子供の頃学  
校に通う途中で車にひかれ右足首から下を失った。

懸命な練習努力の末、本番で3人が挑戦した1メー  
トル89をただ1人クリアし金メダルを獲得した。国か  
らの報奨金、約1140万円を得た。貧しさの中で育  
ててくれた母親に恩返しをしたい、喜んでもらいたい、  
自分達の家を持ちたい。そんな強い思いが力となり、  
メダルを獲得することができたのである。

また素晴らしいと思ったのは、メダルを獲得した選  
手も、メダルに届かなかった選手も、皆んな、いきい  
きとしており、プラス思考の言葉が多かったし、特に  
偉い、立派であると感じたことは、つまずいても転ん  
でも諦めずに最後までプレーを続けたことである。

一人ひとり、かけがえのない命であり、みんな輝  
く存在です、お互認め合い支え合いながら未来に向っ  
て共生社会を築いていきましょう。

結びになります、あいのわ福祉社会の更なる発展  
を願い力を尽す所存でございます。

今後とも何卒よろしくご指導ご支援をお願い申し  
上げます。

平成28年度 第3回 評議員会・理事会報告

●第3回 評議員会報告

日時 平成28年11月22日（火）  
場所 東天紅 上野店・会議室  
議案 第一号議案 平成28年度上半期事業報告（案）  
第二号議案 平成28年度上半期決算報告（案）  
諸規定改正について

●第3回 理事会報告

議案 第一号議案 平成28年度上半期事業報告（案）  
第二号議案 平成28年度上半期決算報告（案）  
第三号議案 諸規定改正について  
第四号議案 評議員専任・解任委員会細則（案）  
評議員専任・解任委員会の選任について

平成28年度上半期事業報告（案）・予算（案）並びに、理事会においては社会福祉法人改革の  
政省令に沿った評議員選任・解任委員会についての審議をいただきまして承認されました。

～平成28年度東京都女性活躍推進大賞 優秀賞受賞～

あいのわ福祉社会は東京都の「平成28年度女性活躍推進大賞 優秀賞」を受賞し、1月18日に東京  
都庁にて東京都生活文化局長より表彰状と楯が授与されました。この賞は、平成26年度に全ての  
女性が意欲と能力に応じて多様な生き方が選択できる社会の実現に向けて新設されました。産業、  
医療・福祉、教育、地域の4分野での女性の活躍推進に取り組む企業や団体及び個人に対して贈  
られるとともに、取組内容を新聞や就職情報誌等のメディアに掲載して広く発信されるものです。  
当法人は、法人設立当初からの女性活躍推進の取  
組みやワーク・ライフ・バランスを目的とした様々  
な支援制度を整備している点が評価されました。

あいのわ福祉社会は職員の皆さんが安心して働き続  
けられる環境整備を一層推進するため、新たにワー  
ク・ライフ・バランスの推進ビジョンを掲げました。  
法人の発展は、職員の皆さんの成長と共にあります。  
今後男女両性の目線に立ち、職員誰もが生き生き  
と働くことができ得る「最高の職場環境」とするビ  
ジョン実現へ向け、一歩ずつ前進させていきたいと  
考えます。

（佐野）





竹の塚あかしあの杜

関東・甲信越区身体障害者施設協議会の研修大会で実践報告しました

9月29日～30日、新潟で開催された関東・甲信越地区身体障害者施設協議会主催の職員研修大会に参加させていただきました。そこで、竹の塚あかしあの杜から「地域生活移行支援」について、実践例を報告しました。在宅で生活されている障害者が地域での生活を継続するために、また、施設に入所している方が地域移行する一つの選択肢として「グループホーム」が考えられるわけですが、東京都内でも重度の身体障害者を対象とするグループホームを運営する数少ない法人のひとつとして、あいのわ支援センターの事業運営と経営、利用者の重度高齢化と医療ケアに絡めて、現状や課題、今後の展望等について、報告しました。

また、平成25年8月、平成27年7月に当施設(入所)を退所して、地域に移られた2名の方について、実践報告しました。

重度障害者の地域生活には、様々な困難が伴う中で、その方が選んだ場所、その方らしい生活を営んでいることの素晴らしさを地方の施設に発信できたことは、とても意義深いことだと思っています。今後もお二人の地域生活を陰ながら見守っていききたいと思えます。



車いす送迎車を寄贈いただきました

11月9日、アステラス製薬株式会社「フライングスター基金」・車いす送迎車贈呈式が行われ、トヨタ・ノアを寄贈していただきました。リフト付き福祉車両は、入所利用者の方、短期入所利用者の方の通院や外出、短期入所利用者の自宅、施設等への送迎に欠かすことができない「あし」です。寄贈に際して、利用者代表の猪田さんから力強いお礼の言葉が述べられました。車いす送迎車の利用調整に四苦八苦していた折、使い勝手の良い貴重な贈り物をしていただき、たいへん感謝しております。基金を設立して頂いたアステラス製薬株式会社様、車いす送迎車の贈呈にあたり、御推薦して頂いた全国肢体不自由児者父母の会連合会様をはじめ、寒風吹く中、ご挨拶を賜ったご来賓の方々、誠にありがとうございました。

(三瓶)



地域交流行事・秋祭り

足立あかしあ園

10月2日に「未来へのかけはし〜みんなまとめていらっ祭〜」をテーマに地域交流会を開催いたしました。今回は、近隣の淵江高校様、青井中学校様、青井小学校様と共にダンスや演劇・演奏を行い、加平小学校と栗島小学校の生徒の皆さまとは当日飾る絵を描かせていただきました。

また、地域の自治会様、各学校のPTAの皆さま、トヨタ東京カローラ様にも当日の運営のご協力をいただき、地域交流会を盛大に実施する事が出来ました。(関口)

綾瀬あかしあ園

綾瀬あかしあ園では10月10日(月曜日)に新たな取り組みとして「ふおらん」へカフェのオープンと共に地域交流会を行い、多くの地域の方々が来園して頂きました。カフェのメニューではカレールイスや野菜バイキング、コーヒーやジュースを販売し、体験コーナーではドレッシングづくりやバルーンワールドを行いました。体験コーナーでは利用者の方々や地域の子どもたちや地域住民の方々と教えたり、教わったり、手伝ったり、手伝ってもらったりと助け合いながら、モノづくり体験ができました。今後も「ふおらん」へカフェや無料フリースペーの貸し出し等を通じて地域の方々や触れ合いながら交流を深めていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。

(石橋)

足立区大谷田障がい福祉施設

10月1日・2日と地域町会との共催による、「秋祭り」が行われました。1日目は朝から小雨が降り、心配されていたお天気も、宵宮が始まる頃には回復し、たくさんの方々が地域の方にお越しいただき、縁日やゲームコーナー、ビンゴ大会の運営を利用者の方、地域の方と協働で行いました。

2日目はお天気にも恵まれ、暑いぐらゐの陽気の中、大神輿を地域の方、職員が中心に担ぎながら町内を練り歩きました。町会の役員の方をはじめ、地域の方と協力し合い、楽しくふれあうことができました。

(市原)



投稿欄

(俳句・川柳など募集中です)

芦の湖の蒼き浪裂く冬の船

秋山 啓司

▼この一句

「生きること」と筋がよし寒椿」 五所平之助  
俳句は「美しくなければならぬ」「見えなければならぬ」「  
「平明でなければならぬ」と句作について三点をあげている。  
一般的には映画監督として知られ「伊豆の踊子」「煙突の見える  
場所」等の作品を残し、煙突とは足立区北千住にあった通称  
おばけ煙突のことで、見る場所によって、一本にも二本にも又  
三本四本にもみえたのである。(秋山)

後援会だより

平成28年9月〜平成28年12月 敬称略・順不同

【特別会員】(101万円) 大川博司、大川恭子

【一般会員・団体会員】(103千円〜55千円)

吉澤則一、足立善夫、加藤勇樹、西村文雄(20)、足立西

加平郵便局、宮田一也、霜田文夫、芦川巖葬儀社(旬)、津久井

吾郎、斉藤善久

【寄付者】

下羽至、東京西新井ライオンズクラブ、株式会社アドバンス、

藤巻映一、西澤歯科医院、佐久間庸夫、菊地英司、都立青井

高等学校生徒会、神の家族主イエス・キリスト教会田島美

※前号で中川美知子様のお名前の誤記載がありました。お詫び  
申し上げます。

●後援会加入のおねがい●

当法人の事業及び運営施設の発展を願い、財政的な援助をしていく  
ことを主として後援会活動を行っております。

一人でも多くの方々にご賛同いただき、後援会への加入ご支援をお  
願い致します。

申し込み・お問合せは後援会事務局  
電話(3849) 1188まで

編集後記

あけましておめでとございませう。

本年も、法人ニュースご愛読いただけましたようよろしく願っています。  
昨年、研修大会(3ページ)の報告会に参加する機会がありました。地域移行の実  
践報告では住まい探し、使えるサービスは、一ヶ月にかかる費用、生活が安定するま  
での足りないところをどう補って行くのか、入所生活で一番関わってきた職員が、地  
域移行される方の思いをひとつひとつ実現させて、その人らしい生活が送れるように  
なったこと。

成人を祝う会

足立あかしあ園

平成29年1月11日に「平成28年度 成人を祝う会」を執り行いました。  
前日より、利用者の皆様に会場作りの準備のご協力をいただき、当日は、利用者の方々、  
来賓の方、保護者の皆様に迎えられ、3名の方が成人を迎えられました。  
華やかな晴れ着姿に身を包み、緊張した表情で成人を迎えての抱負を、思い思いの言葉  
で述べられました。温かい、そして華やかな成人を祝う会を行うことが出来ました。(杉山)

竹の塚あかしの杜

1名の方が成人を迎えられ、1月10日、「成人の祝い」を行いました。式典に際して、  
父母の会会長をはじめ、高等部時代の恩師にもご列席を賜り、お祝いのお言葉をいただ  
きました。また、ご本人よりご家族に、成人を迎えた感謝の言葉が送られました。ご両  
親もさぞお喜びのことと思います。これからもご本人らしさを大切に、明るく元気で笑  
顔の素敵な大人になってください。(三瓶)

神明障がい福祉施設

1月12日、平成28年度成人式を執り行いました。今年度は3名の方が成人を迎え、式  
典では新成人の方が普段行っている作業、活動の様子と新成人を迎えた抱負をまとめた  
ビデオを上映しました。日々取り組んでいる作業や活動の様子、新成人の方の力強く、  
心温まるメッセージに頼もしさを感じる良い式典となりました。

新成人の方と色んなことを経験し、みんなで成長していきたいと思いました。成人お  
めでとございませう。(桑原)

支援に関わった中で得た知識や経験は、きつと次の方の支援に役立つことでしょう。

地域生活への支援は、地域移行支援に限らず生活介護事業に於いても利用者お一人  
おひとりの24時間の生活を見据えた支援が必要になってきていると思えます。

竹の塚あかしの杜が開所して10年、開所した年に父母の会バザーでスローガンに  
掲げた、「入所施設から地域生活を広げよう」着実に広がり始めている事を実感する  
ことができました。

新しい年、利用者皆様の豊かな地域生活を目指して、みんなで力を合わせて前進さ  
せましょ。 (丸山)